

第3回日中韓三カ国環境大臣会合

共同コミュニケ(仮訳)

2001年4月8日 東京、日本

-
1. 川口順子日本国環境大臣の招待により、金明子(キム・ミョンジャ)大韓民国環境部長官と解振華(かい・しんか)中華人民共和国国家環境保護総局長は東京を訪問し、2001年4月7日及び8日に第3回日中韓三カ国環境大臣会合(TEMM)を開催した。また、この機会に三大臣は2001年4月6日、森喜朗総理大臣を表敬訪問した。
 2. 三大臣は、最近の各国及び北東アジア地域における環境への取組の進展について意見交換を行った。三大臣は、2000年11月に行われた日中韓首脳会合において、TEMMの進展に高い評価が示されたことを歓迎した。また、三大臣は、2001年1月の日本における環境省の設立を、日本において環境行政が重要性を増していることを示すものとして歓迎した。
 3. 三大臣は、21世紀には環境保全がより重要となり、世界における持続可能な開発の達成には一層の努力が必要であるという認識を強調した。三大臣は、持続可能な開発の推進に向けた国際的な努力に貢献するという意思を表明した。このため、三大臣は、TEMMの成果を他の地域的、世界的な環境会議に提出すべきという共通の認識を示した。三大臣は、TEMMが、北東アジア地域において環境協力と持続可能な開発を推進する重要な役割を果たすべきことを再確認した。
 4. 三大臣は、TEMMの第1サイクルでの活動をレビューし、TEMMが、三カ国間の相互理解を深め、環境協力を推進することに貢献したと評価した。三大臣は、環境共同体意識の向上と、中央政府、地方政府、研究機関、産業界、NGOといった全ての主体による協力の推進が重要との認識を共有した。

5. 三大臣は、第2回会合時に決定した5分野における実務レベルでのプロジェクト形成、推進の状況をレビューし、環境教育ネットワークのワークショップ、TEMMウェブサイトの開設、中国北西部の生態系保全に関するワークショップなどの主要な成果及び各優先分野におけるプロジェクトの計画の進展を確認した。三大臣は、TEMMプロジェクトの一層の推進を期待すると表明した。三大臣は、また、プロジェクトを成功裡に実施するための組織的・財政的なメカニズムの強化の必要性を認識した。
6. 日中韓首脳会合で、環境プロジェクトについて関係大臣から次回首脳会合時に報告することを求められたことに対応するため、三大臣は、TEMMプロジェクトの最初の成果について報告するとともに、環境意識に関する様々な交流プログラムの推進、環境の産業及びビジネスに関するネットワークの形成、中国北西部の生態系保全などのためのプロジェクトを更に形成し、その結果を首脳会合に報告することを決定した。
7. 三大臣は、また、共通の関心事項である様々な議題について議論した。議論は、気候変動や持続可能な開発世界首脳会議(WSSD)に向けた準備などのグローバルな課題から、中国北西部の生態系保全などの地域の課題にまで及んだ。
8. 気候変動について、三大臣は、深刻な状況に強い懸念を表明した。三大臣は、気候変動に関する国際連合枠組み条約(UNFCCC)の全ての加盟国は、その究極の目標を達成するために、共通ではあるが差異のある責任に応じ、国内的努力と国際協力を更に強化すべきとの共通の認識を再確認した。三大臣はまた、人類の気候変動対策の重要な一步である京都議定書を出来る限り早期に発効させるためCOP6再開会合の成功が必須であるとの共通認識を共有した。この意味において、三大臣は、アメリカ合衆国政府が、このような成功に向け、すべての締約国とともに積極的に取り組むことを強く希望した。
9. 持続可能な開発世界首脳会議(WSSD)に関して、三大臣は、2002年に開催されるWSSDによるアジェンダ21の包括的レビューは21世紀における持

持続可能な発展を可能とするために極めて重要な課題であり、WSSDの成果を
実りあるものとするために三カ国が貢献すべきであるとの認識を共有した。三
大臣は、持続可能な発展の実現に向けて、革新的な戦略を開発するための
地域的努力が重要であることを認識した。また、三大臣は、アジア太平洋環境
開発有識者会議がアジアと太平洋地域の持続可能な発展の審議に貢献する
ことへの期待を表明した。

10. 三大臣は、中国北西部の自然状況の劣化に強い懸念を表明し、この地域及
び全アジア地域における生態系保全に寄与するであろうプロジェクトの形成・
推進を、TEMMプロジェクトの一つとして一步一步着実にやっていくという認
識を確認した。三大臣は、また、三カ国は、土壌劣化によって悪化している砂
塵(黄砂)について、より良い解決策を見つけるために、系統的な研究協力を
推進するという認識を共有した。
11. 大気汚染問題について、三大臣は、酸性雨は三カ国に共通の懸念であるとの
認識を持った。三大臣は、東アジア酸性雨モニタリングネットワーク(EANET)
が2001年1月から正式稼働したことを評価し、EANETの基盤を強化する努
力を継続し、将来のEANET活動について討議する意思を再確認した。三大
臣は、また、酸性雨のモニタリング能力が強化され、これに関連する協力プロ
グラムを可能とする方法が探求されるべきであると認識した。三大臣は、大気
汚染管理の分野における北東アジア地域環境協力プログラム(NEASPEC)
が政府間レベルで積極的な役割を果たすことを認識した。三大臣は、また、大
気汚染物質長距離越境移動に関する日中韓共同研究プロジェクト(LTP)及
び北東アジア地域環境データ研修センター(NEACEDT)について、第2回TE
MM以降の進捗を評価し、これらのプログラムを一層推進するための協力を
継続する意思を表明した。
12. 水管理に関し、三大臣は、持続可能な淡水資源管理と水環境の保全が世界
的な関心事であることを確認した。三大臣は、2001年11月に開催される第9
回世界湖沼会議及び2003年3月に開催される第3回世界水フォーラムの成

功を確実なものとするために、三カ国が積極的な役割を果たすべきとの意見で一致した。

13. 海洋汚染に関し、三大臣は、北西太平洋地域海行動計画(NOWPAP)の地域調整ユニット(RCU)の設置に関する原則合意を歓迎し、本計画下で実施される各種プロジェクトの一層の推進を図ることの重要性を認識した。
14. 生物多様性の保全とその持続可能な利用に関し、三大臣は、動植物に関する適切な情報収集及び情報交換と、プロジェクト方式の協力を探求することの重要性を強調した。三大臣は、湿地が渡り鳥をはじめとした多様な野生生物の生息域として機能する重要な生態系であることの認識を共有した。また、三大臣は、アジア太平洋地域渡り性水鳥保全戦略及び生息地ネットワークの推進を通じ、三カ国が協力して渡り鳥及びその生息地の保護に取り組むことの重要性を認識した。
15. 三大臣は、次回会合を韓国で開催することを決定した。時期及び開催地は開催国が提案し、各国に確認することとした。さらに、三大臣は、三大臣全員が参加する国際会議の機会に会合を持つことを再確認した。三大臣は、TEMMの一層の進展に向けて、その第2サイクルにおいてTEMMの枠組み及び焦点について議論することに合意した。
16. 三大臣は、今回会合が友好的かつ協力的雰囲気で行われたこと、及び、その成果について満足の意を表した。解振華大臣と金明子大臣は、開催国の温かいもてなしに対し感謝の意を表明した。

(署名)

川口 順子

環境大臣

日本国

(署名)

解 振 華

国家環境保護總局長

中華人民共和國

(署名)

金 明 子

環境部長官

大韓民国